

黎明

題字は、校歌（玄閣掲額）より



令和4年
6月15日(水)

地域とともにある学校づくりに向けて

先日（五月二十八日）の学校公開におきましては、多数お集まりいただきありがとうございます。加えて、早朝よりの環境整備活動にご協力いただき、重ねて御礼申し上げます。

子どもたちは大勢の方に見守られていることを実感したことと思います。今後も、授業参観を子どもたちに授業の大切さや学ぶことの意義を伝える重要な機会であると捉え、大切にしていきたいと考えております。

同日、コミュニケーション・スクール運営委員の皆様方をお招きし、本年度第一回目の運営委員会を開催いたしました。頂戴いたしましたご意見をこれからの教育活動に生かし、地域とともにある学校づくりを目指して引き続き努力を続けたいと思っております。

【運営委員の皆様方からの主なご意見（抄）】

- 子どもたちが中学校に入って一段と落ち着き成長している様子が感じられた。
- 多くの授業でさまざまな形でICT機器が活用され、使い慣れていて驚いた。
- 少子化の中、学校規模縮小に対しては学校の特色化が大切ではないかと思う。
- 部活動の在り方が変化しているが、少しでも選択肢が広がることを望む。

人権教育に係る取組を通じて

本日は、学びの一体化の取組の一環として、本校にて授業公開を行い、全学級の授業を対象に小学校の先生方に参観いただきました。今回は、本校のめざす「多様性を尊重し、他者と協働する生徒」の育成を意識し、学級の実態を踏まえつつ、道徳や学活の中で「リフレミング」を取り上げました。

リフレミングとは、心理学の言葉で「物事の捉え方を変えて、別の枠組みで捉え直すこと」を指します。これは、発明王エジソンの、「私は失敗したことがない。ただ、一万通りの、うまく行かない方法を見つけただけだ。」という言葉にも通ずると思います。

授業では、自分の短所だと感じていることを肯定的に受け止めてもらおうと温かな気持ちになることを体感しあうなどしました。今後も、互いにリフレミングしあうことを通じ、人間関係をより円滑にし、支えあい高めあう仲間づくりを目指し取組を続けます。

こうしたことは、生徒たちだけでなく、大人も意識していかなければならないことだと思えます。我々大人がポジティブな表現で言葉がけをすることで、子どもたちの自尊心感情をも高めたいと考えています。

また、教職員一同、子どもたちの人格や能力等を否定する言葉による不適切な指導が決して無いよう、今後も引き続き研鑽に努めてまいります。お気付きの点がございましたら、学校までご相談ください。

未来をたくましくきり拓くために

本校着任二か月余りが経過しました。保護者・地域の皆様方に見守られ、子どもたちが規律正しく、大変落ち着いた学校生活を送っておりますことに、心より感謝しております。

さて、こうした生徒の姿に、学校教育目標「未来をたくましくきり拓く生徒の育成」に一步一步向かっている手応えを感じておりますが、「たくましさ」の部分については、さらなる成長を願うところです。

未来をたくましくきり拓く力は、学ぶ（生きる）意味をかみしめ生きる心から湧き出るものであり、自らの「問い」を持つて考える学びを創造しなければならぬと考えています。

生徒を変えるには授業を変えなければなりません。「なぜそうなのか」「どっちが正しいのか」「それは本当に真実なのか」と追究する授業に向けて取り組みたいと思います。

「学校づくりビジョン（HPに掲載）」もこれに合わせて今後さらに輪郭をくつきりとさせ、取組を進めていきたいと考えています。

まずは、コミュニケーション・スクール運営委員会から意見を頂いたICT機器の有効活用をコロナ禍の中で心理的な距離を縮めるツールとし、追究型の授業に資するよう一層力を入れて研修を進めてまいります。

また、道徳教育や新聞の活用にも力を入れ、たくましさを高めたいと思えます。その様子を日々発信してまいりますので、ご期待ください。

